

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2872 号	氏 名	渡辺 大士
論文審査担当者	主査	泉崎 雅彦 教授	
	副査	小風 暁 教授	
	副査	内田 直樹 教授	
(論文審査の要旨)			
<p>漢方薬、加味逍遥散は精神不安やイライラなど精神神経症状に用いられている。近年、神経ペプチド、オレキシンがストレス反応の制御に関与することが明らかになってきた。渡辺らはラット社会的孤立ストレスモデルを用い、加味逍遥散の抗ストレス作用とオレキシン神経系の関与について検討した。Wistar 系雄性ラットに加味逍遥散 (400mg/kg) を 7 日間連続で経口投与したところ対照群に対して有意に血漿オレキシン A 濃度が低下した。次に、ラットをグループ飼育群 (Control 群)、孤立ストレス群 (Stress 群)、ストレス + 加味逍遥散 (400mg/kg) 投与群 (Stress+KSS 群) に分け、7 日間の飼育後、攻撃性試験、血漿コルチコステロンとオレキシン A 濃度の測定を行った。Stress 群では Control 群と比較し、攻撃行動を示す時間が有意に延長し、血漿コルチコステロンおよびオレキシン A 濃度が有意に上昇したが、Stress+KSS 群ではこれらの変化は有意に抑制された。</p> <p>以上の結果から渡辺らは加味逍遥散は抗ストレス作用を有し、その作用機序として、オレキシン分泌の制御が関与することを示した。</p> <p>本論文には新知見があり、学術的に価値があり、学位論文に相応しいと判定した。</p>			
論文題名： オレキシン分泌の制御を介した加味逍遥散の抗ストレス作用			
掲載雑誌名： 昭和学会雑誌 第 77 巻 第 2 号 2017 年 掲載予定			





